

自己紹介

法政大学 現代福祉学部

大学院人間社会研究科

准教授 野田 岳仁（のだ たけひと）

博士（人間科学） 岐阜県関市出身



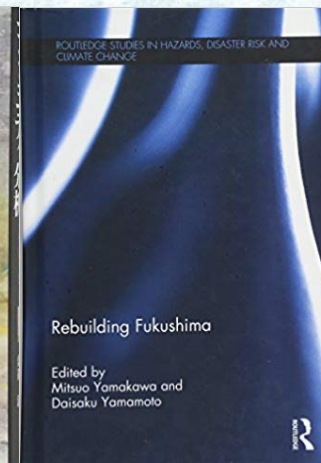
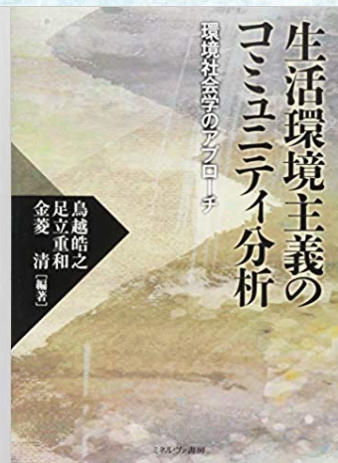
大学在学中にYouth Water Japanを設立し、代表。2002年に大学を休学し、第3回世界水フォーラム事務局チーフ。オランダ皇太子、エジプト水灌漑大臣など世界のリーダーと50カ国1500人の若者を集めた「ユース世界水フォーラム」の責任者を努め、日本水大賞国際貢献賞受賞。

専門は社会学（環境社会学・地域社会学・観光社会学）

“水とコミュニティ”の社会学的研究

ミツカン水の文化センター機関誌
『水の文化』にて連載中

<https://www.mizu.gr.jp/kikanshi/>



川をきれいにするには？



現場の人たちの生活の知恵

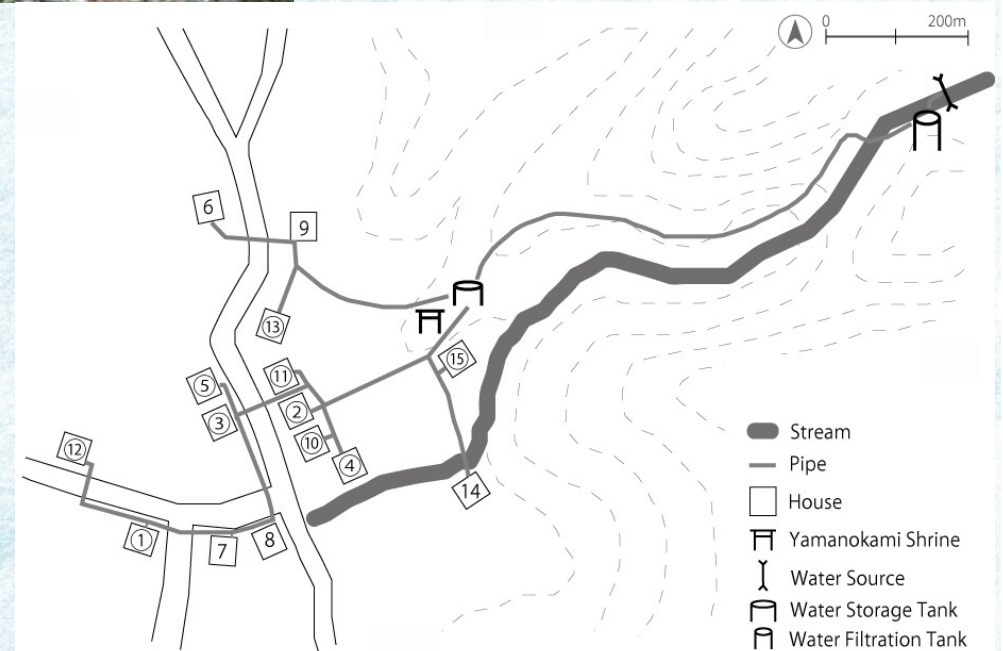




人のつながりの起点である
井戸端（水場）から地域再生が始まる



原発事故後もなぜ汚染が疑われる山の水を使い続けるのか？ (Noda, 2017)



Takehito Noda, 2017 "Why do local residents continue to use potentially contaminated stream water after the nuclear accident? A case study of Kawauchi Village, Fukushima", In *Rebuilding Fukushima*, edited by Mitsuo Yamakawa and Daisaku Yamamoto, Routledge : 53-68

東京都心でも井戸端の再生で地域がつながる

